

様式1

平成30年度 山口県立熊毛北高等学校 学校評価書

校長(沖田 道世)

1 学校教育目標	
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着を図る学習指導の組織的な取組の推進 ○規範意識の向上と望ましい人間関係づくりへの支援の充実 ○キャリア教育の充実による進路選択能力の向上 ○地域への学習成果の積極的な還元
中・長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○誠実: 基本的な生活習慣を身に付け、思いやりの心と責任感をもって行動できる生徒 ○創造: 柔軟な思考力や豊かな感性を身に付け、新たなものや新たな自分を創造できる生徒 ○努力: 学力向上や進路実現に向けて、日々の小さな努力を継続できる生徒

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>[基礎・基本の定着を図る学習指導の組織的な取組の推進] 全校的にアクティブラーニング型の授業に取り組み、年2回の全員参加の研究授業とワークショップ形式の授業検討会を開催して、「わかる授業の実践」に積極的に取り組んだ。授業アンケートでは大多数の生徒が肯定的な評価をし、学校評価アンケートの肯定的評価も28年度より増加した。読書についても自己評価の数値目標をクリアした。しかし、9つの評価項目のうち達成度3以上に達したのはその3項目だけで、28年度の6項目を下回る残念な結果となった。くまスタについてはどの項目も評価が低く、家庭学習も相変わらず低調であった。学校安全部やキャリア支援部とも連携し、学習態度の確立や進路意識の向上を図りながら、工夫改善をしていく必要がある。</p> <p>[規範意識の向上と望ましい人間関係づくりへの支援の充実] 規範意識の向上と望ましい人間関係づくりを推進させるためには、「全員で取り組んでいく『生徒指導上の申し合わせ事項』」の共通理解と面談等の教育相談機能を軸に、学校生活のあらゆる場面で粘り強く指導・支援をしていく。昨年度の学校自己評価で、生徒会や委員会の活性化、充実した部活動運営、不審者情報の随時提供・注意喚起、交通安全意識の高揚、組織的な教育相談活動の展開、いじめの実態把握とその対応についての6項目において高い評価結果となった。日々の組織的な指導支援と、そのもとでの生徒の主体的な活動が展開された成果であるといえる。一方で、生徒の自己指導力(ルールやマナーの習得)、ボランティア活動の積極的参加、健康課題の解決・受診率の向上については今一步の評価であった。これらの課題は、全体的な生徒の傾向によるものと、一部の生徒の状況によって評価を下げてしまっているものがあると考えられる。また特に、美化意識の高揚(掃除の行き届き)については、美化活動をテーマにしたチャレンジ目標を掲げたにもかかわらず、非常に低い評価となった。生徒とともに改善策を求めていく必要がある。</p> <p>[キャリア教育の推進の充実による進路選択能力の向上] 高校生としての基本的なマナー等、進路を考える前の土台作りを重点を置いた取組をしたが、なかなか効果は表れていない。引き続き「産業」の授業担当と連携し、内容の改善に努めていきたい。また進路意識が低い生徒もいることから、引き続き、進路面談で個別に対応をしながら、全体への情報発信する内容や効果的な方法の検討を、学年と連携して行いたい。</p> <p>[地域への学習成果の積極的な還元] これまでの取組の定着を図るとともに、新たに学習成果を還元できる機会を提供できるようにしたい。商品開発では地元の生産者の方、企業の方などのネットワークがより広がりつつあるので、より地元で根差した取組へと展開していけるようすすめて、地域の活性化につなげたい。また、これらの活動を通して生徒の基本的なマナーの定着も図り、地域で活躍できる人材を育てていきたい。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>[基礎・基本の定着を図る学習指導の組織的な取組の推進] 事前学習プリントの活用と再テストの廃止によって、英単語テストと漢字テストの取り組み方に対する生徒の意識改革を図る。新たにくまトレを行うことで、生徒の認知能力を高める。マナトレを1時間1科目から3科目すべてに取り組む方法に変えることで、生徒の集中力を持続させる。くまスタ推進委員会から提案のあった、これらの改善策を実施することで、くまスタの活性化を図り、基礎学力の定着に繋げたい。また、アクティブラーニング型授業の実践、年2回の全員参加の研究授業とワークショップ形式の授業検討会を引き続き行っていくとともに、日々の授業の振り返りや授業アンケート等を参考にしながら授業内容や授業方法を工夫し、「わかる授業の実践」に積極的に取り組みたい。加えて、教職員側から積極的に課題を与えるなどして、家庭学習の定着を図りたい。</p> <p>[規範意識の向上と望ましい人間関係づくりへの支援の充実] 「全員で取り組んでいく『生徒指導上の申し合わせ事項』」の共通実践による授業規律の確立を中核とした一定のけじめや落ち着きのある学級・学年づくりを推進すること。そして、学級・学年以外にも、生徒が自己有用感を高めたり、互いを認めあう人間関係を築いたりする機能を持つ集団として生徒会・委員会・部活動・有志等さまざまな組織・集団の主体的な活動を充実させていくこと。これらの地道な取組によりいじめに関わらない関係づくりに繋げたい。また、担任・学年団による日頃の細やかな面談を軸に、保護者との意思疎通と校内での情報共有を図りながら生徒理解を深め、場合によっては部活動顧問やカウンセリング支援担当等によるサポート体制を機能させていく。また、前年度評価結果から、生徒の自己指導力(ルールやマナーの習得)、ボランティア活動の積極的参加、美化意識の高揚(掃除の行き届き)、健康課題の解決・受診率の向上についてが課題としてあるが、きちんと取り組む生徒を評価すること、不十分な生徒への意識変革を促すことの両方が必要である。学級担任や学年、部活動顧問など生徒とかわる各担当教員が連携して、全体・集団への指導とともに、個別の対象者への働きかけの強化を図りたい。更に、生徒会組織(執行部や委員会、部活動など)とともにこれらの課題意識を共有して、生徒の主体的な取組からも課題改善を目指し、規範意識を向上させたり望ましい人間関係づくりを進めたりすることへと繋げたい。</p> <p>[キャリア教育の充実による進路選択能力の向上] 産業の授業を軸にインターンシップや総合的な学習の時間、進路ガイダンスなど学校全体で体系的なキャリア教育を進めるとともに、基本的な生活習慣やマナー等、進路を考える前の土台作りができるような取組を計画的に行いたい。また、小論文指導・模擬試験の受験に対する意欲付け、進路サポートの早期案内を行い、生徒に向上心をもたせるとともに、進学希望者に対する動機付けと学力向上に向けた組織的な支援を行いたい。引き続きキャリア支援部による個人面談等での個別への対応を行い、全体への情報発信もニーズに応じて行っていきたい。</p> <p>[地域への学習成果の積極的な還元] 幼小中高、地域との連携を図り、生徒が地域で力を発揮できる場を提供し、地域に根付くような息の長い活動にしていきたい。商品開発では、授業と調理研究部が協同して取り組めるように調整し、周南地域地場産業振興センター・地域の企業・地元生産者等と連携し、商品化へつなげたい。また、様々な取組の中で、社会の一員として必要なマナーや礼法、言葉づかい、制服着こなし等の指導に重点を置き、将来にわたり地域活動や災害時のボランティアなどにおいても中心となり活躍できる、信頼され愛される人材を育成していきたい。</p> <p>[チャレンジ目標] 「挨拶」 元気な大きい声で～相手を見て笑顔で～相手より先に誰にでも</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	・分掌間・学年間での情報の共有化の推進	・「生徒情報交換会」や、分掌間、学年間で情報を共有する会議を定期的に開催する。	4: 月1回以上開催し、情報の共有化が十分図られた。 3: 月1回程度開催し、情報の共有化がある程度図られた。 2: 月1回程度開催したが、情報の共有化があまりできなかった。 1: 開催が月1回以下であり、情報の共有化が不十分であった。	4	職員会議の中で「生徒情報交換会」を実施し、全教職員での情報共有を行った。学年主任会議は不定期ではあるが開催し、平素からの情報共有に努めている。また、ケース会議を必要に応じて開催し、組織的な対応を心がけた。	毎月の職員会議の中での「生徒情報交換会」をはじめ、学年会議やケース会議などもあり、情報の共有化は十分できている。	4
	・組織的で効率的な校務遂行による学校の組織力の向上	・各分掌内での役割分担を明確にし、効率的に校務を進める。 ・担当、主任及び管理職の間で「報告・連絡・相談」を確実にに行い、組織的に校務を進める。	教職員の学校評価アンケートにおける関連する評価項目について 4: それぞれの評価項目の肯定的評価が80%以上であった。 3: それぞれの評価項目の肯定的評価が70%以上であった。 2: それぞれの評価項目の肯定的評価が60%以上であった。 1: それぞれの評価項目の肯定的評価が60%未満であった。	4	学校評価アンケートにおいて、「風通しのよい職員室の雰囲気や情報の共有は十分行われている」が91.3%→85.7%とやや減少した。「各分掌における自分の分担業務について役割を十分果たした」は87.0%→81.0%と、これもやや低下した。組織的な学校運営を今後徹底することで、教員定数減にも十分対応していきたい。	数値目標をクリアしている。今後とも風通しのよい職場づくりを続けて欲しい。	4

	・地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進	・「熊北だより」や学校HP等による情報発信の充実を図る。 ・学校情報「東西南北」の活用等、学校行事等の広報活動を積極的に推進する。	4: 学期に20件以上の情報を発信した。 3: 学期に15件以上の情報を発信した。 2: 学期に10件以上の情報を発信した。 1: 学期の情報発信が10件未満であった。	4	学校情報「東西南北」での情報提供は24件、「熊北だより」は、毎月1回発行のペース、HPの内容は23回更新した。生徒・保護者をはじめ、一般の目に触れる機会を増やすために、広報活動の推進に一層取り組みたい。	「100年のあゆみ」作成時に、「熊北だより」は、毎月1回発行のペース、HPの内容は23回更新した。生徒・保護者をはじめ、一般の目に触れる機会を増やすために、広報活動の推進に一層取り組みたい。	4
学習指導	・授業力の向上と生徒一人ひとりに応じた学習指導の充実	・年2回、全教員が参加する研究授業・授業検討会を実施する。	4: 全教員が研究授業・検討会に参加し、成果を共有した。 3: ほとんどの教員が研究授業・検討会に参加し、成果を共有した。 2: 一部の教員が研究授業・検討会に参加し、成果を共有した。 1: 研究授業・検討会の成果が共有できなかった。	4	2学期に「簿記」の研究授業を行った。検討会は従来と形を変え、全教員の視点をそろえる材料にするため、「本校の諸課題について」協議した。3学期に2回目の研究授業(体育)と検討会を実施する予定である。	全教員が参加しての研究授業等、よくやっている。今後も積極的なスキルアップに努めて欲しい。	4
	・授業力の向上と生徒一人ひとりに応じた学習指導の充実	・教員は基礎基本を大切にしたいと努力する。	授業評価・学校評価アンケートにおいて 4: 80%以上の生徒が「よくわかる」と評価した。 3: 70%以上の生徒が「よくわかる」と評価した。 2: 60%以上の生徒が「よくわかる」と評価した。 1: 「よくわかる」と評価した生徒が60%未満であった。	3	授業に関するアンケートにおいて、「板書の仕方(実演、実技指導)はわかりやすい」の項目に生徒の95%以上が肯定的評価をしている。学校評価アンケートにおいて、「基礎基本を大切にしたいと努力する」の項目では、生徒の肯定的な回答は71.8%であったが、昨年度より10%以上増加した。両項目とも80%以上になるよう、さらなる指導方法の工夫・改善に取り組む。	授業の進捗が速いと嫌になるので、これまでと同様に基礎基本を大切にしたい。	3
	・授業力の向上と生徒一人ひとりに応じた学習指導の充実	・教員は、生徒が授業に興味をもつよう工夫する。	授業評価・学校評価アンケートにおいて 4: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が80%以上であった。 3: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が70%以上であった。 2: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が60%以上であった。 1: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が60%未満であった。	3	授業に関するアンケートにおいて、「授業内容は工夫されていて興味がある」の項目に生徒の約95%が肯定的評価をしている。ただし、学校評価アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒は昨年度より8.3%増加したものの、52.2%という低い数字となっている。生徒の興味・関心を引き出すために、日々の授業の振り返りや授業アンケートを参考に、なお一層授業内容や授業方法を工夫していく必要がある。	授業内容の工夫には、主体的・対話的で深い学びや動画・プリントの効果的使用など、各教科・科目で個別に対応しているが、今後もより効果的な指導方法を工夫して欲しい。	3
	・落ち着いた学習環境づくりと生徒の主体的かつ意欲的な学びの促進	・家庭学習に意欲的に取り組む。	学校評価アンケートの関連評価項目において 4: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が70%以上であった。 3: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が60%以上であった。 2: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が50%以上であった。 1: あてはまる(ややあてはまる)と評価した生徒が50%未満であった。	1	「生徒は家庭学習をしている」について、肯定的な回答は、生徒が17.4%、保護者が39.3%であった。昨年度より生徒は3.4%、保護者は5.1%アップしているものの低調傾向が続いている。また、ほとんどの教職員が、生徒は家庭学習をしていないと考えている。生徒の自発的な家庭学習が進まない状況は長年の課題であり、これまで以上に教職員側から積極的な働きかけを行うとともに、保護者との連携を密にし、家庭学習の定着を図る必要がある。	家庭学習時間が少しでも増えるよう、あきらめることなく取り組んで欲しい。週末や長期休業中など、計画的に課題を与えて欲しい。	1
		・朝学に意欲的に取り組む。	くまスタに係る調査に関連する評価項目について 4: それぞれの項目の肯定的評価(できてい/たい)が70%以上であった。 3: それぞれの項目の肯定的評価が60%以上であった。 2: それぞれの項目の肯定的評価が50%以上であった。 1: それぞれの項目の肯定的評価が50%未満であった。	3	くまスタアンケートの回答では、今年度から始まった「くまトレ」に「集中して取り組んでいる」が79%であった。「英単語・漢字テストはしっかり勉強して取り組んでいる」は78.7%で、昨年度より1.9%減ったものの目標値をクリアしている。「始業5分前にはくまスタに取り組んでいる」は63%にとどまったが、昨年度より19.9%も増加した。「くまトレ」の導入や英単語・漢字テストの事前学習の改善策などの成果があらわれたと思われる。	漢字、英単語、読書は社会人としての基本的素養であることを生徒に良く理解させて、真剣に取り組むよう指導して欲しい。	3
		・朝読や読書週間の設定、図書だよりの充実などにより読書への関心を高め、読書の習慣化を推進する。	1か月間の平均読書冊数が 4: 1.5冊以上であった。(全国平均1.4冊、全国学校図書館協議会調べ) 3: 1.0冊以上であった。 2: 0.5冊以上であった。 1: 0.5冊未満であった。	3	読書アンケートにおいて、1か月間の平均読書冊数は1.09冊であった。昨年度の1.03冊よりややアップしたが、全国平均には達していない。図書だよりの配付、多読者表彰など、様々な機会を通じて、読書の習慣化を今後も推進したい。	数値目標をクリアできるように、また、全国平均を上回るように指導して欲しい。	3
	・「くまスタ」による基礎学力の定着	・基礎力診断テストにおいて、上級学校への進学や就職に対応できる生徒の割合を増加させる。	4: D3ゾーン(基礎的事項の復習が必要なレベル)の生徒の割合が各学年の第1回よりも大きく減少した。 3: D3ゾーンの生徒の割合が各学年の第1回よりも減少した。 2: D3ゾーンの生徒の割合が各学年の第1回と変化なし。 1: D3ゾーンの生徒の割合が各学年の第1回よりも増加した。	3	2学年はD3ゾーンの割合が大きく減少(24.2%→15.1%)し、D1以上の割合が大幅に増加した(43.9%→62.1%)。残念ながら、1学年はD3ゾーンの割合が23.7%から29.8%、3学年は25.8%から30.6%に増加したが、1学年についてはC3以上の割合は23.7%から33.3%に上昇しており、一定の成果が出ている。キャリア支援部との連携を深めて生徒の進路意識を高め、一層の学力向上を図りたい。	Dゾーンの底上げと共に、進学希望の成績上位層を伸ばして欲しい。	3
		・自ら学ぶ姿勢を培い、「マナトレ」「ドリスタ」に意欲的に取り組む。	4: 「マナトレ」(「ドリスタ」)が、学力向上に役立ったと評価した生徒が70%以上であった。 3: 「マナトレ」(「ドリスタ」)が、学力向上に役立ったと評価した生徒が60%以上であった。 2: 「マナトレ」(「ドリスタ」)が、学力向上に役立ったと評価した生徒が50%以上であった。 1: 「マナトレ」(「ドリスタ」)が、学力向上に役立ったと評価した生徒が50%未満であった。	3	9月実施のくまスタアンケートでは、「くまスタは自分の学力を付けるのに役立っていると思う」と回答した生徒が、前年比14%増の72.4%であった。また、学校評価アンケートにおいて、「くまスタは、生徒の基礎学力定着に役立っている」と回答した生徒は昨年度より6.8%増の66.3%であった。キャリア支援部主催の「ようこそ先輩」「教えて先輩」では、多くの卒業生・3年生が「マナトレ」が学力向上に役立ったと話している。今後も様々な場面で、「マナトレ」の意義を生徒に周知していきたい。	徳山大学との連携は今後も続けて欲しい。また、卒業生や地域の方との連携も検討して欲しい。	3
		・くまスタ推進委員会を中心に成果の検証と改善点の検討をしながら、全教職員で基礎学力定着に取り組む。	4: 「マナトレ」(「ドリスタ」)を基礎学力の定着に役立てたと評価した教職員が80%以上であった。 3: 「マナトレ」(「ドリスタ」)を基礎学力の定着に役立てたと評価した教職員が70%以上であった。 2: 「マナトレ」(「ドリスタ」)を基礎学力の定着に役立てたと評価した教職員が60%以上であった。 1: 「マナトレ」(「ドリスタ」)を基礎学力の定着に役立てたと評価した教職員が60%未満であった。	3	学校評価アンケートにおいて、「くまスタは生徒の基礎学力定着に役立っている」と回答した教職員は71.4%で、昨年度より6.2%増加した。ベネッセを迎えて学力向上研修会を開き、これまでの取り組みの成果の検証するとともに、それを踏まえてくまスタ推進委員会で「マナトレ」の改善点を検討した。来年度新入生については、国数英それぞれの授業の中で「マナトレ」を行うことになった。	「くまスタ」や「マナトレ」の取組が、基礎学力向上に寄与しているという評価であり、今後さらに推進して欲しい。	3
	・道徳教育を基盤にして、「全員で取り組んでいく『生徒指導上の申し合わせ事項』」の指導を中心とした協働実践を通して、生徒の自己指導力を育成する。	4: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、70%を超えた。 3: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、60%を超えた。 2: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、50%を超えた。 1: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、50%を下回った。	4: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、70%を超えた。 3: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、60%を超えた。 2: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、50%を超えた。 1: 学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、50%を下回った。	2	学校評価アンケートの、学校生活を通じた社会のルールや生活のマナーの習得状況の項目で、生徒は55.1%、保護者は64.1%、教職員は47.6%であり、三者を平均すると55.6%となる。昨年度アンケート結果の生徒44.8%、保護者64.6%、教職員43.5%、三者平均51.0%と比べると、保護者・教職員はあまり変動していないが、生徒評価の10.3ポイントアップが目玉される。一部の不十分な生徒の印象に全体の印象が引っ張られないよう、きちんとしている大多数の生徒を集団の中で褒めていく指導を忘れず、今後も、「全員で取り組んでいく『生徒指導上の申し合わせ事項』」の指導を中心とした組織的な取組を粘り強く続けていきたい。	JR岩徳線・山陽本線の車中マナーはおおむね良い。地域住民として、以前より服装・頭髪で気になる生徒が減っていると感じる。	2

生徒指導・安全指導

進

<p>・主体的かつ規律ある学校生活を通じた自己指導能力の育成</p>	<p>・目標を定め、生徒が主体的に取り組むことを通じて、生徒会や委員会活動の活性化を図る。</p>	<p>4: 活動が非常に活発化し、生徒アンケートで活性化の意識が70%を超えた。 3: 活動が活発化し、生徒アンケートで活性化の意識が60%を超えた。 2: 活発化を図り、生徒アンケートで活性化の意識が50%を超えた。 1: 活発化が図れず、生徒アンケートでも活性化の意識が50%を下回った。</p>	4	<p>学校評価アンケートの、学校行事については、生徒は69.5%、保護者は88.0%、教職員は100.0%が、充実しているという結果であった。また、生徒会活動の評価は、生徒は59.9%、保護者61.2%、教職員は81.0%が、活発であるという結果であった。これらの平均は76.6%となる。昨年度との比較でも、学校行事の教職員100.0%が同じ数値であった以外すべて上昇している。行事、委員会活動、部活動において、さらに多くの生徒が活躍する場を保障していくよう活性化を図っていきたい。</p>	<p>学校行事については、特色ある取組をやっていたらいい。生徒の達成感が得られるような活動を、今後もお願いしたい。</p>	4
	<p>・ボランティア活動を通じて地域・社会の一員としての自覚を育成する。</p>	<p>4: 学校評価アンケートの積極的なボランティア活動への取組の項目で、70%を超えた。 3: 学校評価アンケートの積極的なボランティア活動への取組の項目で、60%を超えた。 2: 学校評価アンケートの積極的なボランティア活動への取組の項目で、50%を超えた。 1: 学校評価アンケートの積極的なボランティア活動への取組の項目で、50%を下回った。</p>	2	<p>学校評価アンケートの、ボランティア活動の取組の評価は、生徒は48.3%、保護者53.4%、教職員は61.9%が、積極的であるという結果で、三者平均54.5%となった。昨年度比較で生徒15.0ポイント増、教職員12.0ポイント減と変動があったが、保護者と三者平均は昨年度同等の数値となった。全校での学校周辺のクリーンアップ活動や、生徒会、委員会、部活動などによって校内外で奉仕的な活動を行ったり、地域の行事に協力したりもしているので、そのPRをより一層してしていくことが、数値向上への手立てとなるだろうと考えられる。</p>	<p>熊北生は積極的にボランティアに参加していると、地域の評価は高い。参加者が固定化せず、多くの生徒が参加するような雰囲気醸成をお願いしたい。</p>	2
	<p>・校内での充実した活動を基盤に、校外とも関わりをもつ開かれた活動を行うなど、多様な内容の部活動を展開する。</p>	<p>4: 多くの部が対外的な活動にも取り組み、多様で充実した部活動運営を行った。 3: 半数以上の部が対外的な活動にも取り組み、多様で充実した部活動運営を行った。 2: 半数以下の部しか対外的な活動がなかったが、校内では概ね充実した部活動運営を行った。 1: どの部も対外的な活動がなく、校内でも充実した活動とはいえなかった。 ※対外的な活動・・・対外試合(公式戦・市民戦・練習試合)やコンクール・錬成会等への出場・参加、校外コンテストへの作品出品、校外での取材活動、熊北レストランの運営など</p>	4	<p>どの部も校外での活動に参加をしたり、一般外部にも公開する学校行事を通じて、校内での活動の成果を発表するなどした。各部とも特性に応じて、日々の活動を着実に展開している。特に今年度は運動部各部において、高水駅での清掃・駐輪自転車整頓など地域貢献活動も広がった。</p>	<p>良い取組を行っており、数値目標をクリアしている。今後も、この活動を推進していただきたい。</p>	4
	<p>・不審者情報などが入れば遅滞なく速やかに生徒に提供し、注意喚起する指導を繰り返し行う。</p>	<p>4: ほぼ毎回迅速な情報提供と注意喚起を行った。 3: 概ね迅速な情報提供と注意喚起を行うことができた。 2: 迅速な情報提供と注意喚起ができないことが多々あった。 1: 迅速な情報提供も注意喚起もできなかった。</p>	4	<p>届いた情報は出来る限り迅速に生徒に提供し、その都度注意喚起を行った。通常は、クラスを通じて終礼の時などに生徒に伝える形をとり、全校生徒が一同に集合する場面がある場合には、学校安全部から一斉に生徒に伝える形をとったこともある。本校生徒が不審者に遭遇した事案もあり、動揺から警察への通報が遅れた事案もあったが、落ち着いて非常に適切に対応でき、容疑者特定につながった事案もあった。</p>	<p>情報は正確で早いことが大切であるので、今後も情報収集に努めて欲しい。</p>	4
	<p>・安全な登下校ができるよう定期的のみならず、不定期にも立番指導を行ったり、全体指導としての交通安全に関する講話や自転車点検などを行ったり、途切れることのない交通指導を通じて、生徒の交通安全意識の高揚を図る。</p>	<p>徒歩や自転車による登下校中の交通事故数を近年のうち多かった年度の10件を基準として 4: 半分以下の5件以下にすることができた。 3: 3分の2以下の7件以下(6~7件)にすることができた。 2: 基準年度と同等程度(8件~10件)で増加はさせなかった。 1: 同等程度(11~13件)であった。</p>	4	<p>学校届出の登下校中の交通事故件数は3件で、評価基準は「4」となる。いずれも自転車乗車中の自動車との接触事故で、直進の自転車に対して、自動車は側道から出てきたり、交差点で右折してきたりしたときの接触事故であったため、本校生徒の過失の程度は低いと思われる事案であった。しかし、登下校に際しては細心の注意を払うよう、指導を重ねていきたい。</p>	<p>重大な事故でなく幸いであったが、事故は1件でも大変なことである。生徒への意識啓発をさらに推進して欲しい。</p>	4
	<p>・生徒一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな適応支援、及び望ましい人間関係づくりや望ましい集団形成を企図した指導支援、安心・安全な生活の実現に向けた指導支援の徹底・充実</p>	<p>日常の掃除監督・指導を強化・工夫することと共に、厚生委員や環境委員などの生徒に美化活動を展開させることも併せて、美化意識の高揚を図る。 学校評価アンケートの掃除の行き届きの項目で、よくするという評価が 4: 教員・生徒・保護者の総合で70%を超えた。 3: 教員・生徒・保護者の総合で60%を超えた。 2: 教員・生徒・保護者の総合で50%を超えた。 1: 教員・生徒・保護者の総合で50%を下回った。</p>	1	<p>学校評価アンケートでは、掃除が行き届いているとしたのは、保護者は69.0%、教職員は42.9%で昨年度と同等であった。教職員の結果については昨年度大きく向上し、それを維持できたといえる。生徒は35.6%で、昨年度より9.5ポイント増となった。平均すると49.1%とまだまだ低調な結果であり、満足するには至らないが、じわじわと成果が出てきているともいえる。生徒会も学校チャレンジ目標に環境美化をテーマに掲げることを数年来継続しており、地道に日々の清掃活動を強化していきたい。</p>	<p>校内は比較的きれいな印象である。ゴミの分別については継続的に指導をお願いしたい。</p>	2
	<p>・日常的な面談や部活動での生徒との関わりの中から、また、SCから等、各方面からの生徒情報を教員間で共有し、組織的な教育相談活動を展開する。</p>	<p>4: 十分な連携がとれ、組織的な教育相談活動が展開できた。 3: 必要な連携がとれ、教育相談活動が展開できた。 2: 連携が不十分ではあったが、教育相談活動は展開できた。 1: 連携がとれず、教育相談活動が不十分であった。</p>	4	<p>学校評価アンケートの生徒の悩みなどの相談体制の項目では、生徒は63.4%、保護者は79.5%、教職員は95.2%であり、三者を平均すると79.4%となる。生徒・教職員は昨年度同等で、保護者は6.9ポイント増であった。学年教員全員による日常的な声かけや面談を中心とした相談体制が定着している成果と考える。定例の情報交換会による全教職員で情報共有、SCや特別支援教育支援員、外部機関の相談員等との情報交換、校内での簡素なケース会議など、小規模校として、機動性の高い組織的な相談活動を展開している。</p>	<p>迅速で正確な情報共有に基づく組織的な対応ができています。引き続きお願いしたい。</p>	4
<p>・いじめ実態調査を学期に1回実施し、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>4: 3回の調査以外でも実態把握に努め、早期対応が十分できた。 3: 3回の調査で実態を把握し、早期対応がある程度できた。 2: 3回の調査で実態を把握したが、早期対応があまりできなかった。 1: 3回の調査をしたが、実態を把握できず、早期対応ができなかった。</p>	3	<p>被害調査・生活調査・健康調査と多面的な紙面調査や、様々な教員であたる細やかな面談等を通じても実態把握に努めた。また、保護者との直接の情報交換など、多くの目での生徒理解に努めた。いくつかのいじめと認定する事案に対しては、発生後すぐに対応を開始しているが、中には解消に向かうのが困難な事案もあり、継続して対応しているものもある。</p>	<p>いじめと思われる事案に対して、早めの対応ができています。</p>	3	
<p>・3年間を見通したキャリア教育の推進</p>	<p>・進路学習を通して勤労観・職業観の深化を図り、主体的な進路決定を支援する。 4: 全ての生徒が主体的に進路を選択した。 3: 8割の生徒が主体的に進路を選択した。 2: 半数以上の生徒が主体的に進路を選択した。 1: 主体的に進路を選択した生徒が半数未満だった。</p>	3	<p>大半の3年生は主体的に進路を選択してきたと考える。生徒に応じた個別対応も状況に応じた方法で行うことができた。しかし、進路意識が低かったり進路実現に向けた努力が難しい生徒もあり、進路決定に至らないことが増えた。</p>	<p>評価基準をクリアしている。</p>	3	
<p>・挨拶指導・マナー指導等を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>4: アンケートで挨拶をよくすると自己評価した生徒が70%を超えた。 3: アンケートで挨拶をよくすると自己評価した生徒が65%を超えた。 2: アンケートで挨拶をよくすると自己評価した生徒が60%を超えた。 1: アンケートで挨拶をよくすると自己評価した生徒が60%を下回った。</p>	1	<p>昨年同様低い評価となった。今年度も引き続き、「産業」の授業等で、日常における基本的なマナー指導に力を入れ、さらに生徒会活動では生徒による挨拶運動等を行ったが、成果には表れていない。今後もあきらめることなく計画的、継続的な取組を検討し実施していきたい。</p>	<p>生徒と教員の評価が大きく異なっている。教員の考えが生徒にきちんと伝わっているか、正しく評価されているか。地域住民との挨拶や来客への挨拶はよくできていると感じる。</p>	2	
<p>・定期的に行う「進路だより」の内容を精選し、ニーズに沿った情報を保護者へ提供する。 ・適切な進路情報の提供</p>	<p>4: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの保護者の回答が80%を超えた。 3: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの保護者の回答が75%を超えた。 2: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの保護者の回答が70%を超えた。 1: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの保護者の回答が70%を下回った。</p>	4	<p>保護者の評価が昨年同様80%を超えた。保護者会での進路情報の提供、定期的な進路相談だよりの配付が、年々周知されてきた結果であると考えられる。さらに、ニーズに合った情報をタイムリーに提供できる工夫を行ってきたい。</p>	<p>数値目標をクリアしている。</p>	4	

路指導	供		4: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの生徒の回答が70%を超えた。 3: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの生徒の回答が65%を超えた。 2: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの生徒の回答が60%を超えた。 1: アンケートで進路情報が適切に提供されているとの生徒の回答が60%を下回った。	4	昨年度に比べると、評価が上がった。学年に応じた進路情報を提供し、さらに各担任が生徒にポイントを押さえて説明したことで、効果が上がっていると考えている。	適切に行われている。きちんと分析もできている。	4
	・進路指導・支援の充実	・「進路サポート」や「夏季課外授業」など生徒一人ひとりの進路希望に応じた支援を行うことで、意欲を高揚させ実力の養成を図る。	4: 実力の向上を実感した生徒が70%を超え、十分に成果があった。 3: 実力の向上を実感した生徒が60%を超え、成果があった。 2: 実力の向上を実感した生徒は50%程度であったが、成果はあった。 1: 実力の向上を実感した生徒が50%を下回り、成果はあがらなかった。	4	自分の進路実現に向け、意欲的に取り組んだ生徒が多かったからだと考える。ただ、中には、最低限度の取組で終わった生徒や、進路サポートを活用しない生徒もいるので、今後は現状に満足するのではなく、さらに実力を向上するような意欲をもたせたい。また、早い段階から準備をさせていきたい。	「進路サポート」で、進路別に個別対応を実施しているが、今後も丁寧に対応して欲しい。	4
	・就職指導・支援の充実	・関係機関と連携を図り、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな就職情報を提供する。 ・雇用状況の変化に的確に対応し、効果的な求人開拓を行う。	4: 生徒一人ひとりの希望に応じた求人開拓が十分にできた。 3: 生徒一人ひとりの希望に応じた求人開拓がある程度できた。 2: 生徒一人ひとりの希望に応じた求人開拓があまりできなかった。 1: 求人開拓がほとんどできなかった。	4	担任をサポートし、生徒それぞれに応じた就職情報が提供できたと考えている。関係機関との連携や企業合同就職フェアへの参加等で求人開拓も行った。しかし、学校を通しての就職活動にのろうとしない生徒が数人ではあるが、これが課題である。	最後まで、進学・就職のサポートを行って欲しい。	4
健康指導	・自らの心身の健康に関心を持ち、生涯を通じて自己管理できる資質や能力の育成	・健康診断後、特に歯科において受診が必要な生徒に対して、段階的な個別・集団指導を行い、歯科衛生の向上を図る。	4: 段階的な指導により、歯科要治療者の80%以上が受診をした。 3: 段階的な指導により、歯科要治療者の50%以上が受診をした。 2: 段階的な指導はしたが、歯科要治療者の50%未満しか受診をしなかった。 1: 段階的な指導は十分できず、歯科要治療者の50%未満しか受診をしなかった。	3	今年度は要受診者に対する受診指導を計画的に実施した成果もあってか、受診率が50%に向上した。ただ、学年による受診状況の差が大きく、また生徒間での自身の健康に対する意識の差が課題である。今後も継続して未受診者に対する受診指導をしていきたい。	予防指導、受診指導共に粘り強くお願いしたい。保護者への受診のお願いの方法も検討してみると良い。	3
		・生徒自身が健康課題を見つけ、健康課題の解決に向けた取組を行う。	4: 70%以上の生徒が自身の健康課題を見つけ、解決に向けた取組ができた。 3: 60%以上の生徒が自身の健康課題を見つけ、解決に向けた取組ができた。 2: 60%以上の生徒が自身の健康課題を見つけたが、解決に向けた取組を十分に行うことができなかった。 1: 60%未満の生徒しか健康課題を見つけないことができず、解決に向けた取組を十分に行うことができなかった。	2	健康診断後、一人ひとり自分なりの健康目標を考えることはできていた。しかし、その目標の達成については十分できたとはいえない。生徒自身の健康管理能力をより高めることができるような健康教育を検討していきたい。	日頃から健康について関心を持ち、様々なリスクを未然に防ぐ意識啓発をお願いしたい。年度末での改善目標達成を期待したい。	2
施設・管理	・施設・設備の改善	・学校安全部と連携し、生徒の安全に係る施設・設備の定期的な点検を実施し、迅速・適切な補修を行う。	4: 定期的な安全点検を実施し、十分な改善が図られた。 3: 定期的な安全点検を実施し、ほぼ改善が図られた。 2: 定期的な安全点検は実施したが、十分な改善が図られなかった。 1: 定期的な安全点検が実施できなかった。	3	学校安全部が定期的実施している安全点検により見つけた補修の必要な箇所についての補修等、適宜対応を行っている。予算を伴う大掛かりなものについては、県教委への予算要求も行い、計画的に改善している。また、保護者から要望の出ている普通教室への空調設置については、補正予算が議会で承認されたため今後設置に向けて工事が行われる予定	事務と学校安全部の連携により適切に対応できている。	3
業務改善	・会議の効率化と時間短縮	・職員会議、運営委員会、各種会議で協議事項及び報告・連絡事項を整理する。	4: 全ての会議が1時間以内で実施された。 3: 80%の会議が、1時間以内で実施された。 2: 70%の会議が、1時間以内で実施された。 1: 1時間以内で実施された会議は、70%未満であった。	3	職員会議は、ほとんど時間内で実施できている。職員朝礼も、伝達プリントを利用することで時間短縮が図られている。ただ、予定外の会議が急遽入ることがあったので、来年度に向けて改善していきたい。	改善が進んでいる。一層の効率化と時間短縮を目指して欲しい。	3
	・業務の効率化と適正な事務処理の促進	・業務の効率化を図る。	4: 多くの業務で効率化ができた。 3: かなりの業務で効率化ができた。 2: あまり効率化が進まなかった。 1: ほとんど効率化ができなかった。	3	事務職員と教育職員との連携を密にし、効率的な事務処理等適切な対応を行うように努めている。	事務と教員の連携はよく取れている。	3
		・適正な事務処理を行う。	4: 全会計について適正な事務処理ができた。 3: おおむね適正処理ができた。 2: 適正処理を図ったが、一部改善すべき項目があった。 1: 主旨どおりの処理が不十分だった。	4	日頃から法令、通達等に基づいた適正な事務処理を心掛けている。私費会計、徴収金の出納に際しては証拠書類を明確にし、決裁により複数人で確認し適正に処理を行っている。	診断・分析の通りと判断できる。	4
	・勤務時間の適切な管理及び教職員の健康の維持増進	・業務時間の縮減を図る。	4: 時間外勤務の平均が40時間未満であった。 3: 時間外勤務の平均が40～50時間であった。 2: 時間外勤務の平均が50～60時間であった。 1: 時間外勤務の平均が60時間を超えた。	3	4月～12月の時間外業務時間の平均は43.3時間であった。昨年度の年間平均が37.2時間であったので、約6時間増加している。教職員の健康の維持増進に向けて、一層の業務改善が必要である。	時間外業務時間の増加は残念である。原因を把握し、少しでも減少するように努力して欲しい。	3

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【基礎・基本の定着を図る学習指導の組織的な取組の推進】

全校で主体的・対話的で深い学び型授業に取り組み、年2回の全員参加の研究授業と授業検討会を開催した。各教科に共通する改善点と学校としての指導方針を議論し、授業改善に積極的に取り組んだ。授業アンケートでは95%以上の生徒が肯定的な評価をし、学校評価アンケートの肯定的評価は70%を超え、昨年度よりも増加した。読書についても昨年度よりわずかに増加した。ただし、「家庭学習に意欲的に取り組む」の評価は1であり、依然として低い状態が続いている。

【規範意識の向上と望ましい人間関係づくりへの支援の充実】

生徒会や委員会の活性化、充実した部活動運営、不審者情報の随時提供・注意喚起、交通安全意識の高揚、組織的な教育相談活動の展開の5項目において高い評価結果となったが、昨年度の高評価6項目に対して一つ減少した。高評価のものは、日々の組織的な指導支援と、そのもとでの生徒の主体的な活動が展開された成果であるといえる。一方で、ボランティア活動の積極的参加については今一步であった。また、美化意識の高揚(掃除の行き届き)については、美化活動をテーマにしたチャレンジ目標を掲げたにもかかわらず、昨年度と同様に非常に低い評価となった。生徒とともに改善策を求めていく必要がある。

【キャリア教育の推進の充実による進路選択能力の向上】

進路行事や「産業」の授業での計画的な取組、進路情報の提供等により、キャリア教育の充実を図った。また、進学への学習サポートや個に応じた就職指導により、三年生の大半は進路実現に向け意欲的に取り組むことができた。しかし、例年重要視していた挨拶やマナー等についてはまだ身に付いていない生徒が多く、今後も継続的な指導が必要である。

【地域への学習成果の積極的な還元】

幼・小・中と連携した取組、子育て支援センター等の福祉施設訪問、地域の催しへの参加等を通して、学習成果を地域へ還元することができた。また、商品開発では「課題研究」の授業を中心として、関係機関の助言とサポートを受けることで新たな商品化ができた。このような活動は生徒の人的成長や自己肯定感につながっており、学校の総合力向上にも大きく寄与しているので、今後も推進していきたい。

7 次年度への改善策

【基礎・基本の定着を図る学習指導の組織的な取組の推進】

全校で主体的・対話的で深い学び型授業に取り組み、年2回の全員参加の研究授業と授業検討会を引き続き行っていくとともに、日々の授業の振り返りや授業アンケート等を参考にしながら授業内容や授業方法を工夫し、「わかる授業」の実践に積極的に取り組みたい。くまスタについては、くまスタ推進委員会を中心に、より生徒の基礎学力向上につながる方向で改善策を検討したい。また、教職員側から積極的に課題を与えて、家庭学習の定着を図りたい。

【規範意識の向上と望ましい人間関係づくりへの支援の充実】

学校自己評価が低い生徒の自己指導力(ルールやマナーの習得)、ボランティア活動の積極的参加、美化意識の高揚(掃除の行き届き)、健康課題の解決・受診率の向上については、きちんと取り組む生徒を評価することと、不十分な生徒への意識変革を促すことの両方が必要である。学級担任や学年、部活動顧問など生徒とかわる各担当教員との連携により、全体・集団への指導とともに、個別の対象者への働きかけの強化を図りたい。また、生徒会組織(執行部や委員会、部活動など)とともにこれらの課題意識を共有して、生徒の主体的な取組からも課題改善を目指し、規範意識を向上させたり望ましい人間関係づくりを進めたりすることへと繋げたい。

【キャリア教育の推進の充実による進路選択能力の向上】

「産業」の授業の振り返りを行い、さらに効果的な計画に組み替えていきたい。特に挨拶やマナーが身に付くような取組を充実させたい。また、進路実現に向けては、引き続き個に応じた支援、関係機関との連携を適切に行い、すべての生徒が意欲的に取り組めるようサポートしたい。

【地域への学習成果の積極的な還元】

これまでの取組の定着をさらに図り、新たに学習成果を還元できる機会を提供していきたい。商品開発では、これまで蓄積してきた地元の生産者、企業等とのネットワークを利用して、より地元へ根差した取組へと展開し、地域の活性化につなげたい。また、これらの活動を通して基本的なマナーの定着も図りたい。